

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：多自然川づくり意識の普及に向けて～若手実務者向け事例集の作成～	
水系/河川名：—	河川分類：その他
河川の流域面積：—	整備計画流量：—m <sup>3</sup> /s
種別：—	セグメント：0
事業：その他	事業開始年度 令和2年度
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な) その他	
工法(主な)：その他	
配慮事項(主な)：人材育成、その他	

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

中部地方整備局では、河川法改正20年多自然川づくり推進委員会提言「持続性ある実践的多自然川づくりに向けて」を踏まえ、ワークショップの開催や研修プログラムの作成等の多自然川づくりを徹底・継承するための人材育成を平成29年度より進めているところである。

その一環として、昨年度から中部地方整備局管内での良好な多自然川づくり等の事例を元に有識者の助言を得ながら、河川管理者が川づくりを自ら考え工夫する際に現場で役立つ参考書となる事例集の製作を行ってきた。

しかし、事例集の内容は河川に関する基礎知識や多自然川づくりについての意欲をある程度持っている人でないと難しいので、より多くの人に多自然川づくりに興味を持ってもらうために、事例集を材料とし多自然川づくりについて紹介した若手実務者向け事例集を作成することとなった。それに伴い、事例集を表1の通り位置付けることとした。

##### <課題>

- ・若手実務者向け事例集の対象としている若手の意見を参考にしながら使いやすい冊子の作成。

##### <目標>

・中部地整独自のアットホームな親しみを覚えてもらう資料とする。また、今後の若手研修等で多自然川づくりの入門編として使用しながら、内容をどんどん更新して、より良いものにしていく。

・若手実務者向け事例集をきっかけにより多くの人に多自然川づくりの意識を広めるとともに、中部地方整備局独自の多自然川づくりに対する取り組みを若手技術者に受け継いでもらう。

表1 事例集の位置付け

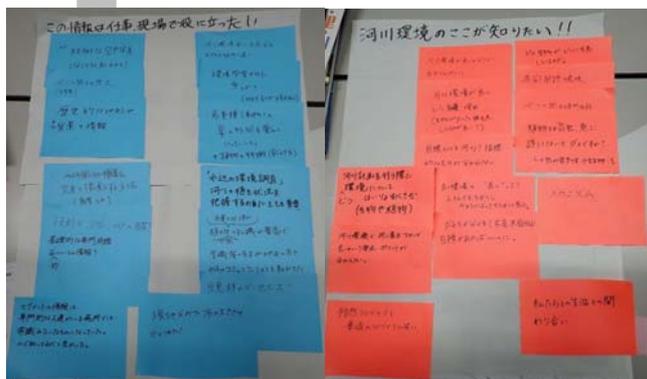
資料名	対象と用途	主な内容
若手実務者向け事例集 (冊子版事例集)	河川管理に関わる若手実務者を対象に、多自然川づくりに興味を持つ。	・良好な河川環境の特徴、見方の解説。 ・1事例につき4ページ程度で簡単に解説。 (総ページ数20ページ程度)
従来型事例集 (テキスト版事例集)	多自然川づくりの技術を現場で実践したい若手～中堅実務者を対象に、多自然川づくりの良好な事例から基礎知識、技術的な知見・手法を学ぶ。	・川づくりを自ら考え、工夫する際に現場で役立つ参考書。 ・自然の営力により良好な河川環境が維持しているメカニズムを専門的な視点で解説。 (総ページ数90ページ程度)

#### 取り組み内容・対策例(1/2)

若手実務者向け事例集を作成するにあたっては若手実務者がより親しみやすく手に取りやすい資料となるよう若手を中心とした企画会議や意見聴取を行い、若手の意見を取り入れながら作成を行うこととした。

#### ①企画会議

- ・実際に多自然川づくりや河川環境に関わる仕事をしていて役立った情報や分からないこと、知りたいことを出し合い、冊子版事例集に掲載する内容の検討。
- ・興味を持ちやすい、読みやすいデザインについて既存のパンフレット等を参考に検討。



企画会議で出された意見



企画会議の様子

取り組み内容・対策例 (2/2)

②意見聴取

- ・企画会議の結果を踏まえて作成した、2つのデザイン案を用いて全体のデザインや図・写真について若手実務者を中心に意見聴取。
- ・興味を得られやすい多自然に関する話題についての調査。

③意見聴取

- ・意見聴取の結果を踏まえ、作成した原稿案について文章・図・写真等それぞれについて理解できるか再度若手実務者から意見を聴取。

④企画会議

- ・意見聴取の結果を受けて、原稿案の修正方針について検討。

＜意見聴取及び企画会議から得られた事例集作成のポイント＞

- ・読みやすくするため文字を減らし、イラストや写真で解説する。
- ・人の利用や多自然川づくりの経験談を入れることで身近に感じてもらえるようにする。
- ・難しい専門用語をできる限り減らし、予備知識がなくても理解できるようにする。
- ・より詳しく知りたい人のために、従来型事例集と内容がリンクするようにする。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜今後の対応方針＞

- ・意見聴取や企画会議で得られた意見を元に、令和4年1月を目途に作成を行う。
- ・完成後も若手実務者の意見を踏まえ内容を順次更新していく。
- ・冊子版事例集とテキスト版事例集を用いた、現場研修プログラムの開発を行う。
- ・配布・広報の方法について検討を行う。

＜アピールポイント＞

- ・企画会議や意見聴取で若手実務者の意見を取り入れることで、より現場に寄り添った資料となるようにしている。
- ・多自然川づくりに関心を持ってもらえる入口となることをコンセプトとして作成しているため、予備知識が少ない人でも気軽に読むことができる。
- ・実際に中部地方整備局管内の良好な川づくり事例を元に作成しているため、実際に現場に行かなくても多自然川づくりの具体的な成功例について簡単に知ることができる。
- ・若手実務者向け事例集を作成する上で元となっている従来型事例集はコンサルタンツ、学識経験者、土木研究所自然共生研究センターと連携してヒアリング、フィードバックを行い作成しており、冊子版についても学識経験者、土木研究所自然共生研究センターと連携をとりながら作成している。



備考

- ・令和4年1月発行予定。